

1 実践の概要

タイトル	緊急時における保護者への園児引き渡し訓練
概要	実施日時：平成25年7月18日（木）15時00分から16時00分まで 実施場所：認定こども園 つきの木こども園 参加者：全園児62名 全職員27名 保護者54世帯

2 実践内容

実践方法と進め方		工夫した点○ 苦勞した点●
<p>1. 事前活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 『緊急時における園児引き渡し訓練（地震を想定）』について、保護者への協力依頼文書を配布する。（7月5日） 引き渡しに必要なカードと身分証明書を作成する。 保護者への引き渡し手順について職員間で最終打ち合わせをし、動向の確認をする。（7月16日） 当日の訓練に必要な用具や道具等の保管場所を確認する。（7月17日） <p>2. 防災訓練（園児引き渡し）当日</p>		<p>○事前に職員の役割を明確化しておき、地震発生時の初期対応を周知した。</p> <p>○連絡網は、兄弟がいる場合の混線を避けるために上の子のみの連絡とし、各担任は番号を年度当初、携帯電話に入力しておいた。</p> <p>●昨年の反省から、連絡網での情報収集と伝達が終わってから園に迎えに来ることを、保護者に徹底するための協力依頼文書を配布した。</p> <p>○引き渡しカードには園児名を書いたインデックスを貼っておき、クラスごとにバインダーでファイルすることで、迅速な対応ができるようにした。</p> <p>●保護者の姿を見た瞬間に側に走りたくなる子どもの心理をくみ取って保護者が引き取りに来るまで落ち着いて待てるように心配りをした。</p> <p>○玄関前には、パーテーションやテントを配置したり誘導用プラカードの掲示や職員が言葉かけをすることで保護者の流れが滞らないようにした。</p> <p>○駐車場においては、職員の配置と看板や白線で表示するなど安全な出入りができるようにした。</p>
時刻	子どもの動き	職員の動き
15:00	<p>巨大地震（震度5）発生</p> <ul style="list-style-type: none"> 園庭に避難 	<ul style="list-style-type: none"> 非常口の確保、残留児の確認 行政への避難報告 火元の確認、パラソルの準備（暑さ対策）
15:10	<p>園長が保護者に対し、園児の引き渡し訓練を決定</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任の話を落ち着いて聞く。 遊戯室に移動し、安全な場所でクラスごとに保護者を待つ。（壁側） 	<ul style="list-style-type: none"> 腕章着用（職員の目印とする） 各担任は、保護者に携帯電話による連絡網で、引き渡しを伝える。 担任以外の職員は園舎の被害状況を確認した上で、園児の遊戯室（二次避難）への誘導と引き渡しの準備を行なう。
15:20	<p>保護者への引き渡し開始（主に、職員と保護者の動き）</p> <ul style="list-style-type: none"> 色別に分別した身分証明書と園保管の引き渡しカードの内容を照合し、引き受け者を確認した上で氏名を記入してもらう。 子どもの荷物を取ってきてもらい、各担任及び補助に付いた職員など複数の目で確認をし、確実に保護者に引き渡す。 子どもたちが不安にならないように側に寄り添い、安心して保護者の迎えを待てるようにする 保護者の誘導や言葉かけは『丁寧に・的確に・簡潔に』を心がける。 職員は自分の役割を確実に果たすとともに、場の状況に応じて連携をとり合い、訓練がスムーズに進められるようにする。 	
15:40		<ul style="list-style-type: none"> 各担任は、園児引き渡し終了を園長に報告 園長は、保護者引き渡し終了を行政に報告

協力・連絡先の分類	団体名・組織名	協力・連携の内容
保護者・PTA関係	・つきの木こども園保護者	文書を配布して協力を依頼する ・園児引き渡し訓練の実施方法 ・訓練に必要な園児引き渡しカードおよび身分証明書の使用法 ・引き渡しと待機についてのマニュアル
国・地方公共団体・公共施設	・社会福祉法人大空大仙事務局	・実施における事前の連絡と引き渡し終了の報告

3 成果と課題

成 果 (職 員) (保護者) (子ども)	1 前年度の訓練の反省から出入り口の混雑を避けるため、玄関前にテントを張った。それに伴い、スペースが確保でき、人の流れがスムーズになった。 2 様々な場面を想定して、綿密な事前の打ち合わせをしたことにより、咄嗟のことにも困惑せずに対応できた。 3 保護者会役員の評価の中には、自分たちの訓練でもあることを感じた人が多かった。特に「実際の災害時には、先生たちが揃っていないこともある。保護者も臨機応変に行動することが大切」という事に気付いた役員もいた。 4 日々の保育の中で、自分が置かれた状況の安全や危険について考える機会を設けてきたことで、当日の訓練にも真剣に取り組んでいた。
課 題	1 順路に戸惑った保護者がいたことにより、誘導用ブラカードには文字による標記だけではなく、数字も明記して順番がわかるようにした方が良かった。 2 連絡網による伝言が正確に伝わらないところがあった。伝言マニュアルを保護者にも配布して、周知してもらう必要がある。 3 実践することによって、複雑なシフトにおける職場の特性から、職員の役割分担を固定化せず、いつどんな状況においても対応できる知識や判断力が必要であることが見えてきた。
今後の継続予定	1 園児の命を守るために『地域の園』として支えてもらう手段として、近隣の中学校や地域との交流を深め、協力体制を作っていく。 2 引き渡し訓練で、明らかになった課題については早期に改善し、いざという時すぐに対応できるようにしていく。



<玄関前での受付>



<表示やパーテーションの設置>



<クラスごとの引き受け者の氏名記入と引き渡しカードの受け取り>



<引き渡しを待つ園児たち>